

# ゆめ ゆらゆ 夢 舞台

菅波 茂

先月30日。岡山国際交  
流センター国際会議場  
にて、岡山県立大学大  
学院公開講座として、南  
海トラフ対応を考えると  
題し、講義とシンポジウ  
ムを行った。講座終了後  
に総社市・香川県丸亀市、  
そしてAMD Aの三者で  
災害時応援協定を締結し  
た。

南海トラフ巨大地震が  
発生した時に、西日本太  
平洋沿岸の名古屋や大阪  
などの大都市が大被害を  
受ける。そこに東日本と  
世界からの支援が集中す  
る。結果として四国は孤  
立する可能性があるが、  
徳島県と高知県も甚大な  
被害を受ける。岡山県に  
本部のあるAMD Aグル  
ープは両県を支援の対象  
と想定している。そして  
四国の交通の要所である  
丸亀市がロジスティクス  
拠点になる。四国山地越  
えにより両県を支援す  
る。

南海トラフ対応徳島県  
プログラム  
の要旨とし、シンポジウムの内容を  
簡単に紹介したい。岡  
山県立大学副理事長の阿  
部淳二氏より、県立大学  
としての南海トラフ対応  
の検討の開始の報告。丸  
亀市にある瀬戸健診クリ  
ニックの麻田ヒデミ所長  
は、検査ができる診療車  
両活用の災害時の有効性  
を説明した。

## 南海トラフ対応徳島県プログラム



災害時応援協定を結んだ  
総社市、丸亀市、AMD  
Aの関係者

書対応の後方支援拠点に  
ついて提言。徳島県美馬  
市で、地上ヘリポートを  
備えたホウエツ病院を経  
営する芳越会の林秀樹理  
事長は、DMAT指定病  
院として、津波被害の少  
ない地域の特性を生かし  
た具体的かつ先駆的活動  
を紹介。徳島県美波町由  
岐支所産業振興課の浜大  
吾郎氏は、町にある日本  
最古の津波碑に触れ、先  
祖たちが厳しい災害を乗  
り越えて続いていた町の  
営みを「事前復興まちづ  
くり」という新しいコン  
セプトで紹介した。

メントが会場を熱気に包  
んだ。  
私からは、南海トラフ  
対応では海外との連携が  
生命線となることを提起  
した。生産基地の被災に  
加えて物流がストップ。  
人的物的支援、そして募  
金などが徹底的に不足す  
る。海外とは日本海沿岸  
の都市とのハブ空港とな  
っている韓国と、東日本  
大震災の時に一番支援し  
てくれた台湾。加えて、  
海外進出している日本企  
業や在外邦人である。海  
外からの医療チーム受け  
入れ準備は在日外国人の  
みならず日本人被災者に  
とっても心強い。そして、  
いまだに復興途上の東日  
本被災地と重なれば、南  
海トラフ後の復興は強烈  
なインフレを伴うことも  
視野に入れておくべきで  
ある。

総社市の片岡聡一市長  
からは、平時からNPO  
や自治体間で連携協定を  
結んでおけば、大災害時  
に多くの人を助けること  
につながるとの提言。丸  
亀市の梶正治市長は、自  
主防災会が防災功労者内  
閣総理大臣表彰に選ばれ  
た実績を紹介し、南海ト  
ラフ発生時には総社市と  
連携してロジスティクス  
拠点として支援活動を行  
うことを発表。引き続き、  
これらの講師に美波町消  
防防災課長の橋本一晴氏  
を加えたシンポジウムが  
あり、個々の志の高いコ  
ンセプトで紹介した。

相互扶助は世界の常識  
いできれば幸いである。  
(AMD Aグループ代表)